



学び手としての大きな力

校長 野間 義晴

2月には、幼保小交流（幼稚園・保育園・小学校交流）として、園のみなさんが来校し、1年生や5年生と交流しました。1年生が案内しながら学校探検をしました。1年生はお姉さん、お兄さんの顔をしていて頼もしさを感じました。また、5年生は来年度新しい1年生を迎えるべく、園児にあった本の読み聞かせをしたり、外でゲームをしたりして、園児の小学校入学への期待を膨らませると共に最高学年への心の準備をしていました。

交流活動を子どもたちに任せることによって、子どもの言葉や行動は大きく変わり探究的なまなびになっていきました。こうした子どもの学びへの意欲は半端ではなく、学び手としての大きな力を感じました。

子どもたちの育ちと学びをつなごうと、横浜市では乳幼児期に遊びを通して育まれた資質・能力を、小学校以降の探究的な学びにつなげることを重視しています。こうした探究的な学びは、多様な立場の者が協働的に活動し納得解を生み出そうと探究的に活動をしていきます。国の中央教育審議会（2021年）においても「多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手になる」ことを求めています。こうした教育の方向性は、本校の教育目標にある「高め合おう つながろう 未来を創る元石川の子」にもつながります。

予測困難な時代とよく言われ、新型コロナウイルス感染症や地震等の自然災害により一層先行き不透明となる中、私たち一人一人、そして社会全体が、正解のない課題にどう立ち向かうかが問われています。目の前の事象から解決すべき問題を見出し、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得できる解を生み出すことが大切です。そのために、幼児を含め子どもが主体的に環境とかわり、具体的な体験を通して豊かな感性を発揮したり好奇心や探究心が高まったりしていくなどの幼児期の学習を小学校につなげていくことが重要なのです。（参考・2021年中央教育審議会より）

園児との交流のほかにも、2月には、学校保健委員会におけるけが防止に向けた「全校ダッシュストップ運動」や、運動委員会による体力向上への「マラソン週間」の取組など、さまざまな活動に学び手としての大きな力が発揮されていて、これまでの育ちを頼もしく思います。

年度の締めくくりとして、これまでのクラスや学校での活躍がたくさんありました。これからの子どもたちの人生に生かせるよう、子どもの実態に寄り添い、一つひとつの活躍への振り返りを大切にしながら、学校教育目標の実現に向けてよりよい教育活動を目指していきたいと思えます。今年度の教育活動に、保護者・地域の皆様のご理解とお力添えをいただきましたことに心より感謝申し上げます。